

2024年1月19日 第3457回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 藤村 会長
 <斉 唱> 「我等の生業」
 <誕生月祝> *江 沢 暁 彦 (S.16.1.1) *比 護 友 一 (S.46.1.4)
 *小佐野 圭 三 (S.19.1.5) *福 西 美 子 (S.12.1.5)
 *鈴 木 豊 司 (S.48.1.8) *南 裕 貴 (S.62.1.20)
 *永 井 信 年 (S.59.1.22) *齋 藤 秀 人 (S.42.1.24)
 *曾 我 宗 光 (S.45.1.26) *鈴 木 孝 博 (S.41.1.27)
 *小保内 洋 子 (S.45.1.27) *飯 塚 進 一 郎 (S.25.1.28)
 *野 坂 英 八 (S.24.1.29) *中 村 清 乃 (S.43.1.31)

各会員

- <入会月祝> ・三 堀 孝 夫 会 員
 <会 報 告> *義援金集計報告 155,020円
 *理事・役員会報告
 ・情報集会のテーマと日程変更について
 テーマ：米山奨学金勉強会
 日 程：3月22日から4月12日12:30～13:30へ変更し、
 3月22日は休会
 ・職場体験報告について ビデオ報告に代える
 *ガバナー事務所から
 ・令和6年能登半島地震への義援金協力依頼について
 ・2026-27年度ガバナーノミニー確定宣言 中込 仁志 会 員(鎌倉RC)
 ・2014-25年度地区役員・委員会委員(正副委員長含む)ご就任委嘱の件
 地区諮問委員会/地区氏名委員会/バストガバナー 委員 小 沢 一 彦
 地区諮問委員会/地区氏名委員会/バストガバナー 委員 小佐野 圭 三
 ガバナー補佐/オンツー・カルガリー国際大会委員会 委員 前 田 長 生
 地区ラーニング委員会 副委員長 田 邊 一 三
 地区危機管理委員会 委員長 岡 田 英 城
 姉妹地区委員会 副委員長 北 村 理 和 子
 地区ローターアクト委員会 委員長 角 井 駿 輔
 地区米山委員会 委員長 齋 藤 秀 人
 ・2023-24年度危機管理セミナー開催のご案内について
 2月17日(土)14:00～16:30 場所:アイクロス湘南6F「E会議室」
 ・ネパール ツトワンRCへの親善訪問について

<委員長報告> *出席委員会 小平委員から12月分出席報告 12月分平均出席率 84.13%

	会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
12月1日	119名	108名	72名(2名)	36名	18名	83.33%
8日	119名	110名	77名(6名)	33名	17名	85.45%
15日	119名	111名	79名(4名)	32名	13名	82.14%
22日	119名	111名	79名	32名	16名	85.59%

*雑誌委員会 江口委員から ロータリーの友 1月号

<出席報告> *出席委員会 小平委員から1月19日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
119名	106名	74名(4名)	32名	7名	76.42%

メイクアップ：岡田(英)、鈴木(孝)、Enora、Loknath 会 員 CHITWAN RC 出席

田邊、小山(陽)会員 地区委員会 出席

高橋会員 第7回理事役員会 出席

- <幹事報告> *週報 横須賀西RCから受領
*ガバナー月信 NO. 7
*新会員卓話についてのお願い
*例会終了後 ピンクリボン運動特別委員会開催(例会場)

<ニコニコ報告>

- ・江 沢、比 護、小佐野、福 西、永 井、
齋藤(備)、小保内、飯 塚、中村(備) 各会員 誕生月祝いとして
- ・三 堀 会員 入会月祝いとして
- ・三 役 久保田会員、本日の卓話よろしくお願ひいたします。
- ・久保田 会員 年男卓話とVTT報告をさせていただきます。横須賀ロータリークラブの会員の皆様に御礼申し上げます。
- ・椿、木 村、大野(備)、植 田、比 護、兼 城、大 石、鷲 尾、永 井、
小保内、福 西、長 島、梁 井、前 田、寺 田、杉 浦、小 平、江 口、
小 沢、小佐野、児 玉、松本(備)、飯 塚、佐久間、新倉(備)、山 下、谷、
澤 田、齋藤(備)、田 中、松本(備)、齋藤(眞)、根 岸、徳 永、齋藤(眞)、上 林 各会員
改めましてあけましておめでとうございます。本年の干支は「甲辰」で「物事の始まり」と「成長」という意味があるようです。本日は久保田会員による年男卓話とVTT報告卓話という豪華な内容です。よろしくお願ひいたします。
- ・三 役 先週の第1G合同例会ありがとうございました。
- ・加藤(備)、植 田、高 橋、八 巻、八 木、権 田、
中村(備)、松本(備)、齋藤(眞)、長 尾、角 井、小山(備) 各会員
新たな奉仕プロジェクトを発掘すべく、岡田英城会員、鈴木孝博会員、エノラ会員がロクナト会員の故郷であるネパールで現地調査に行っています。多くの方の知己を得て、無事のお帰りをお待ちしております。
- ・江 沢 会員 無事生還しました。
- ・石 田、高 橋、竹 株、渡 辺、瀬 戸、小 沢、
江 沢、二 瓶、田 村、土 田、松本(備)、三 堀 各会員
阪神大震災から29年が経ちました。30歳以下は震災の記憶がない世代となり、次の世代に語り継ぐことが課題になりつつあります。元旦の能登半島地震のように災害はいつ起こるか分かりません。これを機に防災への備えを確認できるとよいですね。

<年 男 卓 話> (2023-24年度VTT活動報告を兼ねて)

久保田 英 朗 会 員

私の出身地である九州では、家族に長男が誕生すると可愛がられとても大事にされます。私も長男ですが、6廻り目の辰年で今年72歳になります。現在まで大病を患わず丈夫な体に育ててくれた両親に感謝する次第です。

さて、本日お手元に配られたロータリーの友にロータリアンとしての職業奉仕の事が書かれています。特に、その13頁に書かれているVTT (Vocational Training Team: 職業研修チーム) については、横須賀ロータリークラブとして2014年から2023年に至る10年間で3回グローバル補助金を得て、フィリピン国での口唇口蓋裂児の医療活動を行ってきました。そのきっかけは、私が所属していた大学のNPO法人神奈川歯科大学南東アジア支援団の一員として、フィリピン国セブ市の貧困層の子供たちの歯科検診ならびに歯科医療活動を行う中で、学童の約1%に口唇口蓋裂児が認められ、約0.2%といわれるアジア人の発生率に比べ多いことに気づいたからでした。

その理由として、日本では国民皆保険制度が整備され、低年齢の時期に口唇口蓋裂児は無償で手術を受けられますが、フィリピン国の貧困層では家族の年収を上回る治療費を支払うことができないこと、口唇口蓋裂の慈善治療を担当する医師、歯科医師が少ないこと、疾病に対する母子保健指導が徹底されていないことなどが挙げられます。そこで、フィリピン国の貧困層の口唇口蓋裂患児に対し、慈善医療活動を行うとともに、現地医療スタッフに口唇口蓋裂医療の技術移転と教育を行い、現地の医療人による治療の確立を目指し、さらに同地域に口唇口蓋裂医療の治療拠点を築くことを最終目標として活動を始めました。

フィリピン国では、ROTAPLAST、OPERATION RESTORE HOPE、OPERATION SMILEなど米国を主とする慈善団体が口唇口蓋裂の慈善医療活動を行っていますが、現地で手術だけを行い、術後の患者のフォローアップや現地医療関係者への技術移転などは行っていません。セブ市の人口は約200万人で、学童中の口唇口蓋裂発生率をアジア人の平均である0.2%とすると毎年4,000名の患者が治療を必要とすることになります。口唇口蓋裂児の慈善医療活動を外国の団体が行っても、患者数に対し治療のキャパシティが追いついていないのが現状です。

横須賀ロータリークラブでは2014年にグローバル補助金 GG1414737 を得て、セブ島の西方にあるネグロス島ドマゲッティ市の南ドマゲッティRCと協力し、現地の歯科医師である Patrick 氏、看護師、言語聴覚士を日本に招聘し、口唇口蓋裂術後の言語治療について職業研修を行いました。また、2016年には南ドマゲッティRCより会員数が多く、数多くの奉仕活動を手掛けているセブRCと協力してGG1639071の補助金を得て、セブ市のADVENTISTS' 病院で活動を行いました。セブRCは、病院への患児の受け入れ(家族への連絡、病室の確保、入院食の提供)を現地NPO法人である Abounding in Love やローターアクターと共に支援し、派遣チーム活動中の諸事の面倒をみてくれました。2019年からは、3年間に渡るGG1874420の補助金を得て、セブ市に口唇口蓋裂の医療拠点(口唇口蓋裂センター)を設立することができました。2020年と2021年はコロナパンデミックのため3年間に渡る活動を一旦休止せざるを得ませんでした。2022年に活動を再開し、2023年の最終年までの活動を無事終了することができました。

これには、横須賀ロータリークラブの会員の皆様、実際現地まで出向いていただいた歴代会長の皆様、VTT委員会の委員の皆様の協力がなくては成しえなかった事と思います。

また、1999年からずっと一緒に活動を支援し続けてくれた Patrick 氏、河野伸二郎氏、佐賀大学香月武教授、さらに2019年からは私の友人でマニラの De Los Santos Medical Center の口腔外科医である Mario Esquillo 教授とそのレジデント(研修医)、すでに日本の歯科大学を定年退官した覚



道健治、内山健志、栗田賢一の教授たちも手弁当で活動に参加し、VTTの目的である現地医療従事者への口唇口蓋裂医療の技術移転をスムーズに行うことができました。

特に2023年の活動は、それまでのADVENTISTS' HOSPITALからVISAYASMED HOSPITALに変更され、手術室の設備、患者の入院環境も格段に良くなっていました。2023年に関西医科大学形成外科から参加してくれた先生は、チームリーダーである私が最年長であると思っていたようですが、私よりもずっと年上の元教授3人が疲れも見せず活動していたのに驚いたそうです。私は寄る年波には勝てず、昨年未右眼の白内障手術を受けましたが、現在は視力が回復し、体が健康な限りもう少しこの活動が続けられそうです。

最後に、会員の皆様には長年にわたり本活動にご理解とご協力をいただき本当に感謝申し上げます。

1



*辰年の会員：吉田 清、久保田英朗、外木 祥司、畑 宏明 各会員

<閉会・点鐘> 13:30 藤村 会長

週報担当 山田 哲也